

オーストラリアの金利引き下げについて

2015年2月4日

2月3日（現地時間）、オーストラリア準備銀行（中央銀行）は定例の金融政策決定会合において政策金利の0.25%引き下げを決めました。これで同国の政策金利は2.25%となりました。なお同国の利下げは2013年8月以来となります。会合直前には市場関係者の間でも利下げ予想が徐々に増えていたこともあり、為替レートは、利下げ直後に大きく下落したものの、その後は利下げ前の水準に戻っています。

《金利引き下げ決定に至った経緯について》

約1年半ぶりの実施の背景としては、①景気鈍化への対応、②世界的な金融緩和環境における為替レートの上昇抑制、などがあるとみられます。

①オーストラリア政府・中央銀行は資源依存の経済から脱したいとの考えはあるものの、現実にはGDP（国内総生産）に占める鉱業部門の割合は高く、鉄鉱石をはじめとする鉱物資源が最大の輸出品目となっています。

足元の国内需要は弱く、さらには鉄鉱石をはじめとする鉱物資源の下落傾向が今後の自国経済の成長抑制になるとの見方が広がっていました（準備銀行が算出しているコモディティ指数の過去1年間の下落率は19%超）。

②ECB（欧州中央銀行）の量的緩和の導入、デンマークの連続利下げ、同じ資源輸出国であるカナダの予想外の利下げなど、先進国でも景気鈍化や期待インフレ率の低迷を背景に金融緩和の動きが広がっています。

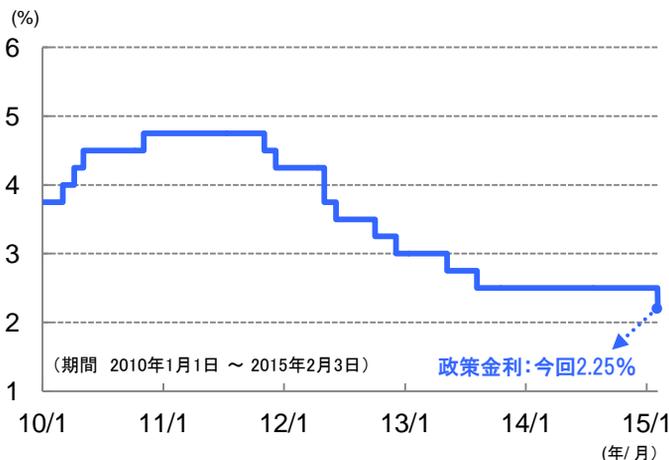
オーストラリアでも政策金利を据え置くことによる為替レートの上昇を回避したいとの考えからの実施だったと思われます。なお準備銀行総裁は自国通貨について、対米ドルでは下落しているものの、多通貨バスケットでみた場合、依然としてファンダメンタルズに見合った水準を超えているとしています。

《今後の景気、為替レートについて》

オーストラリアでは、緩やかな経済成長が続いていますが、7～9月期の成長率が+2.7%（前年同期比）と過去のトレンド（+3%程度）よりも幾分下方にあります。企業部門では同景況感に頭打ちがみられ始めています。家計部門では住宅市場はこれまで好調でしたが、住宅融資に減速感が出ています。失業率の上昇傾向についても準備銀行では問題視しており、消費者信頼感などのセンチメント指数に陰りがみられるなど、今後消費の減速感も広がるとみられます。投資では鉱物資源価格の下落が続いており、資源開発投資は今後も減少すると予想され、現在のところ同投資の代替も明確にはみられません。

当面、準備銀行は利下げ効果を見守る姿勢をとると予想されます。早期に手を打ったことで、景気の一段の減速は避けられると思われる。ただオーストラリア・ドルについては、為替レートの水準が高いとする当局の考えは変わっておらず、底打ち感が出るまで主要通貨に対して上値の重い状態が継続すると考えられます。

《オーストラリアの政策金利の推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《オーストラリア・ドルの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。